

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000033		
法人名	有限会社 敬愛サービス		
事業所名	グループホーム そるぶす豊幌 あかりユニット		
所在地	江別市豊幌美咲町2番地2		
自己評価作成日	平成27年1月31日	評価結果市町村受理日	平成27年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000033-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成27年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の「あくまでも人間らしく」の理念のもと、地域の中で入居者一人一人が1日1日を大切に生活し、マイクロバスで出かける機会を多く持ち充実した日常生活を営めるよう職員でケアさせていただいております。また、家事や畑仕事は入居者の皆様と一緒に引き、役割を持っていただき張りのある生活をしていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者は、認知症の地域高齢者が安心して暮らせる環境を作るために、平成14年にグループホームなかまど大麻を開設し、そこでの経験と蓄積されたノウハウを基に更なる地域貢献を目指し、平成19年江別市に2ヶ所目のグループホームとしてそるぶす豊幌を開設し、8年目を迎えている。2ヶ所の事業所は、季節の行事を合同で執り行うなどし、利用者の交流を図り、協力体制を築いている。事業所内は、利用者や職員の動線や視線を考慮し、廊下の手すりや居室入口上部の棚、洗濯干し用のパイプの設置やキッチン、トイレの配置などに盛り沢山のアイデアが活かされ、快適で安全に配慮した住環境になっている。「あくまでも人間らしく」を基本理念とし、人間としてのあたりまえの暮らしとは何かを常に考えて、運営者、ホーム長、管理者、職員が一丸となり、ケアサービスに取り組んでいる。運営者は、利用者に充実した暮らしを提供したいとの考えから、マイクロバスを活用し、五感刺激の機会として外出支援を多く企画しており、外食や梅園見学、イチゴ狩り、海水浴、雪まつり見学など、家族の協力を大切にしながら、社会との繋がりを大切に支援に取り組んでいる。日常的にも、時間帯や行き先を固定せず散歩や買い物などに「ふらっと」出かける支援に取り組んでいる。事業所は開放的で、傾聴や折り紙などのボランティアの訪問を多く受け入れ、利用者の楽しみ事となるよう支援している。地域とは、町内会行事の参加は勿論、当事業所主催の夏祭りや避難訓練、運営推進会議にも地域住民の参加協力があり、交流を深めている。事業所には、運営者や職員の子どもや孫の訪問も多く、迎え入れることにより利用者の表情は明るくなり、穏やかで家族のように自然体で暮らしている。協力医の訪問診療と訪問看護により、利用者の日々の健康管理に努めるとともに、最後まで人間らしく過ごせる支援として看取りを経験し、家族の信頼に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するために、ユニット内に理念を掲げて、目に触れるようにしている。職員会議やユニット会議で復唱し参加者で確認し、実践に中で取り入れるようにしている。	「あくまでも人間らしく」の法人理念を基本に、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所方針と介護方針を全職員で作り上げている。「喜怒哀楽」を大切にしたケアサービスが実践出来るように、職員は会議などで、理念を共有し意識付けを図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、花壇づくり、ゴミ拾いなど町内の行事に参加し、傾聴ボランティア、折り紙ボランティアの方たちに来園していただき、交流している。	事業所は常に開放的で、傾聴や折り紙などレクリエーションボランティアを受け入れ、町内会の行事にも積極的に参加している。特に夏祭りでは、出店を出すなどして利用者と一緒に楽しんでいる。事業所主催の夏祭りにも多くの地域住民や家族の参加協力を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターのメイトが3名在籍し、地域の講演で啓蒙活動を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に運営推進会議を実施し、事業の報告をして、地域の方や家族の方の意見や改善点を生かせるように話し合っている。	運営推進会議は、利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、町内会役員などの参加を得て、2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所の運営や活動内容、防災訓練、地域交流などについて報告し、そこで出された提案や要望を運営に活かしている。	毎回、テーマを決めて開催しているが、更に、参加メンバーから意見、要望、質問などの表出を積極的に促し、より充実した話し合いの場となることを期待する。また、議事録には、表出した意見や話し合いの内容を全て明確に記録する事を期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類など市に提出する際は、話し合いを持ち協力関係を築いている。	施設長は、介護保険課主催の「えべつ認知症オレンジの会」や運営委員会議などに参加し、情報交換を行い連携を図っている。担当窓口とは、資料提出時や利用者個々の案件についての相談時に指導を仰ぎ、協働関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外、玄関は常に開錠しており、外出傾向にある入居者にはさりげなく一緒に行動し、身体拘束が入居者に与える弊害を心に置きながらケアを行っている	職員会議にて、事例を挙げて話し合い、身体拘束の禁止対象となる行為について振り返り検討し、情報を共有している。日々のケアサービスの中での不適切と思われる行為に対しては、主任、副主任が指導するなどし、事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で虐待につながる行為等を説明して周知徹底し、虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中で成年後見制度について説明したり、その必要性を話し合ったりしている。成年後見人が来援することにより、その制度は認識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者との話し合いの中で家族や利用者の不安を取り除けるよう傾聴し対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が訪問した際は、改善点を聞き、運営推進会議内でも意見が出た際は速やかに対応するよう努めている。利用者に関してはモニタリングをして要望書の記入により要望が確実に実現できるように努めている。	家族の来訪が多く、職員は話し易い雰囲気作りに努めている。意見や意向を聞き取り要望書に記載し、情報の共有を図りながら実現に向けて取り組んでいる。2ヶ月毎に広報誌を作成し、利用者家族に郵送している。また、3ヶ月に1度は家族に利用者の近況報告を行っている。事業所行事にも多くの家族が参加し交流を深めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、ホーム長、管理者が会議や毎日の業務報告の中で職員の意見を聞き働きやすい職場づくりをしている。	施設長、ホーム長、管理者は、職員と日常的に何でも話し合える関係作りに努めている。月1度の全体会議の場でも、聞く機会を設け、ケアサービスの提案や業務上の要望などを話し合い、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が仕事をしやすいように、休憩室の整備や介護労力の軽減に努めている。ホーム内の勉強会、外部での研修を受ける機会を設け職員の段階に応じてトレーニングし、向上心が持てるよう整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会、外部での研修を受け職員の段階に応じてトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの集いの企画に参加し、交流を深め情報交換をしている。江別市内の管理者、代表者の会を行って情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、職員が本人と直接話し、困っている事など聞き安心した暮らしが送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や入居者の今後について話し合いをし、家族が面会に来園された際は気軽に話ができるよう関係づくりをして要望が出しやすくなるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談には迅速に対応し、入居者本人や家族とも話し合いの場を持つように配慮をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員とのコミュニケーションを活発に図るようにし、その人に合った支援に活かせるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事の参加などをさせていただいたり、面会時間などは設けずに家族の方がいつでも来園出来ることができるよう工夫している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常会話の中で、これまでの人間関係や生まれ育った場所の話をしたり、電話を掛けたり関係が途切れないようにしている。	利用者・訪問者とも高齢化などにより、訪問の機会が少なくなっている状況にある。敬老会には利用者の希望を叶えて、外食や水族館、動物園、富良野など行きたい場所へ職員同行で支援している。馴染みの病院受診継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係調整するように努め、共用スペースでは利用者同士が自由に過ごせる場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談を受け入れる体制にあり。継続的な関係を持つよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の自立を促す様努めている。利用者から個別に情報を聞きとり、聞き取り困難な方はご家族から情報をいただいて、本人の思いを汲み取りその思いに近づけるように努めている。	センター方式のアセスメントを基に、職員は関わりの中で得た情報を積み重ね、利用者とのさり気ない会話の中からも要望を汲み取り、意向に沿った支援に取り組んでいる。情報は日誌に記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家具、衣服、食器など使い慣れた生活用品を利用し安心して過ごせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ユニット会議、職員会議を行い入居者の心身の状態の把握に努めている。毎日の申し送り、情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の声に耳を傾け、家族の意見を取り入れ、センター方式を用いて、個々の課題とニーズを出し合い、ケース会議で意見、アイデアを取り入れモニタリングして作成している。	センター方式のシートを基に毎月モニタリングを行い、ユニット会議にて担当者を中心に全職員で話し合い、3ヶ月毎に見直している。計画作成者は暫定プランを立て、家族に説明し、了承を得た内容で最終確認としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別記録を個別にとっており、気づきや工夫がある場合は個別記録に記入。朝のミーティング、申し送り、職員ノートで情報共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各家族の状況に応じて接しており、入居者のご家族が来園された時や電話で連絡した時は、ご家族の希望を聞き、現状を改善できることは改善するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアなど社会資源を有効活用し入居者の生活の質向上に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の訪問診療、訪問看護の実施、かかりつけ病院を確保し、病院内には気軽に相談できる相談員がいて、本人や家族の意向に柔軟に対応できるように、入居者の健康管理を支援している。	協力医療機関による往診は月2回実施され、緊急時は24時間対応で連携を図っている。かかりつけ医への受診は、家族対応が基本であるが、状況によっては職員が支援している。訪問診療記録を作成し、家族と情報を共有している。訪問看護師が日々の健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常のかかわりの中でとらえた情報や気づきを訪問看護師や医師に伝えて相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、入院先のドクター、家族と連絡を密にしている。職員は自主的にお見舞いに行き本人の身体状況の把握、退院後の支援についての情報交換を施設長、ホーム長、職員、家族と行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化、重度化した場合は医師、家族と職員がともに話し合いをしている。ターミナルケアについて入居者、家族の思いを文書化し、その方針をケース記録、業務日誌等で職員間で共有している。	入居時に「重度化に関する対応指針」及び「心肺停止時における意識調査」を提示し、利用者、家族に説明を行い同意書を得ている。既に看取りを経験しており、医療連携の下、家族とは何度も話し合い、方針を共有しながら、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の指定病院を定め、対応の流れを記載した一覧表を各ユニット毎に貼っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間と日中、年2回の防災訓練の実施。その際、町内会や民生委員の方に協力をお願いしている。	防災訓練は年2回実施している。6月は、消防署指導の下に、昼の避難訓練を地域住民、利用者参加を得て実施している。9月は、実際に夜間帯で避難訓練を行い、利用者の状態を踏まえた避難誘導を確認している。断水時のシュミレーションも行い、発電機を始め、災害備蓄品を確保している。	事業所は災害対策に十分配慮しているが、避難訓練は重ねる度に、課題が見えてくるので、その課題解決に向けての対策検討を期待する。また、様々な自然災害や場面想定に応じた(トイレ・入浴・食事など)シュミレーションや訓練を重ねることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の誇りやプライバシーを損ねないように職員間で気をつけている。個人情報厳守するよう職員会議などで話し合っている。	職員は接遇マナーを学び、日頃からどのような対応や言葉掛けが最善か、ユニット会議や職員会議で話し合うとともに意識し、誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。時には、利用者の望む呼び方を確認し、対応している。個人情報に関する資料は事務所に整備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、入居者に時間がかかっても複数の事柄から選んでいただき、本人に確認してもらい了解を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活暦や本人の得意なこと、本人のニーズを踏まえた上で、個性を尊重し、出来るだけ希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や機能性に配慮しつつ、その人らしい個性を尊重したおしゃれができるよう支援している。2か月に1度、訪問理美容を利用し美容師のアドバイスを受けできるだけ本人の希望に添えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力を合わせ、調理や盛り付け、後片付けを職員と一緒に、健康状態、身体機能に合わせた食事形態をとっている。	献立は、栄養バランスや利用者の嗜好を考慮して、ホーム長が作成している。体調に合わせて、ミキサー食、刻み食、とろみ食も用意している。夏場には、畑で収穫した野菜も調理している。寿司や弁当の出前、レストランでの外食など、変化のある食事を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌に1日分の水分量を記載し、水分確保をして脱水予防を行っている。食事を上手く摂れない方にはミキサーにかけるとして食べられるよう工夫をし、栄養士がメニュー案を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が一人一人の利用者の口腔ケアを見守り、身体状況、認知状況に合わせ見守りや声掛け磨き直しをして口腔内の確認を行っている。義歯については週2回洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。口腔内異常の際は速やかに歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居した際は排泄パターンを知るためケース記録に記入し、職員間で情報共有している。排泄があればその都度ケース記録に記入し、思うように排泄がコントロールできない方には声掛けや誘導をし、できる限り自立排泄ができるよう努めている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、排泄のタイミングや表情、動作などを見極めながら誘導し、トイレでの排泄自立支援に取り組んでいる。衛生用品は、利用者の状態に合わせ、多種類の衛生用品を検討し、日中は可能な限り布パンツで支援している。トイレは浴室を中心に3ヶ所あり、汚染時は気付かれずに対応出来、使いやすく整備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排便リズムをケース記録に記入し、排便のリズムを把握できるよう努めている。また、ファイバーや運動によって薬に頼らない排便ができるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は特定せず、1週間に2回入浴できるよう心掛け、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、快適に生活できるよう入浴を行っている。	毎日入浴出来る体制を整え、週2回以上を目安に入浴を支援している。年越し時には就寝前に入浴するなど柔軟に対応している。職員と一緒に入浴を楽しむことも有り、1対1の場面では触れ合いを大切に、本音を聞き出し、思いの把握に努めている。同性介助や2人介助にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくデイルームで過ごせるように楽しみを持ち、家事や他利用者や職員と話しして過ごし、体調や状況に応じて居室でお休みいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日飲む薬を1日前日の夕方に準備し、箱に飲んでいる薬の名前や写真を貼り、薬の情報は、いつでも確認できるところに保管し病状変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの情報を元に得意な事、趣味等を探り、職員同士話し合い、本人のニーズに出来るだけ応えられるように努め、月1回レク協の方に来いただき楽しみを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など積極的に行っている。月に数度の外食や四季を感じることができる場所への外出は入居者の楽しみの一つとなっている。	事業所は閉じこもらない暮らしを支援しており、時間帯や行先を固定せずに、利用者の希望に沿って、散歩や喫茶店、買い物などに「ふらっと」出かける支援に取り組んでいる。マイクロバスで、雪まつりや梅園、イチゴ狩り、海水浴などにも出かけ、家族参加で楽しんでいる。家族の協力の下、個別対応にも取り組み、外出を五感刺激の機会として支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は買い物を見守っているが、出来ない方はホーム側でお小遣いを預かり、本人の希望の物を買えるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙はすべて本人に取り次ぎ、本人が家族と話したい時は施設の電話で話ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビはあまりつけていないが、日中テレビをつけているときはテレビの音量を下げ、入居者同士が話しやすい環境を作っている。また、室温、湿度には常に気を配り、状況に応じてカーテン、加湿器等で建物内の環境を整え、心地よい生活空間づくりに努めている。	各ユニットのリビングは大きな窓からの陽射しも明るく、広くゆったりとしている。キッチンからは利用者の様子や玄関先まで見渡せる構造になっている。廊下も卓球を楽しめる程広く、レクリエーション活動やリハビリには最適な空間である。随所に畳の長椅子が設置され、足元は床暖房で暖かく、思い思いに過ごせる空間も工夫している。神棚も作り、家庭的な雰囲気を出し、安らげる空間となるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子を各所に置き談話スペースとしている。また、状況に合わせて席替えや模様替えを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は、本人の使い慣れた馴染みの家具を使用し、居室や廊下に家族写真や自作の作品を飾っている。	居室入口上部に棚が有り、部屋側からも廊下側からも荷物が取り出せる工夫をしている。室内にはタンスや椅子、テレビ、仏壇など、馴染みの品が持ち込まれている。壁には、絵やカレンダー、好きなアイドルの写真などを飾り、それぞれに個性的な部屋を作り上げている。更に、ケアブランも貼っており、日々確認することが出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、廊下や階段、玄関など必要なところは手すりを設置している。各利用者毎の力に応じ、安全かつ安心して生活できる環境づくりに努めている。		